



シングルサインオンとアクセス制御を両立

Online Service Gateで不正アクセスを防ぐ

はじめに

近年、社会全体のDX推進や、テレワークの普及、働き方の多様化などを背景に、様々なクラウドサービスの活用が進んでいます。

そこで気になるのが、クラウドサービスのセキュリティです。企業の機密情報への不正アクセスによる情報漏えい事故は後を絶ちません。しかし、DXは企業にとって重要な取り組みであり、セキュリティを理由に止めることはできません。

だからこそ求められるのが、情報漏えい事故を防ぐためのセキュリティ対策です。

本資料では、それらを解決するOnline Service Gateを紹介します。

CONTENS

不正アクセスへの対策は必要不可欠

対策が進んでも減る気配が見えない「不正アクセス」の被害	3
不正アクセスの最大の要因は「ID/パスワードの流出」	4
ID/パスワードだけに頼ったアクセス制御では不十分	5

不正アクセスを未然に防ぐOnline Service Gate

高度なアクセス制御とユーザーの利便性を考慮したSSOの両立	7
Online Service Gateの基本機能①	8
IPアドレス制御+デバイス制御で不正アクセスを遮断	9
Online Service Gateの基本機能②	10
シングルサインオンのメリット	11

Online Service Gateを活用するために

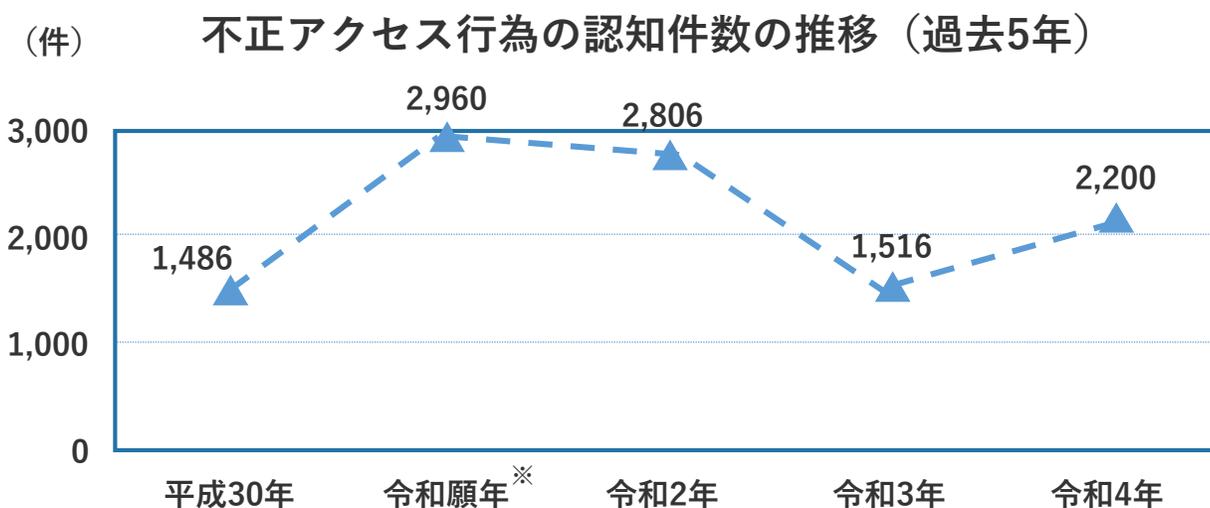
テクバンの ClouXion 導入・運用支援のメリット	13
Microsoft 365の導入・運用支援はテクバンにご相談を！	14

対策が進んでも減る気配が見えない「不正アクセス」の被害

一旦減少した不正アクセス被害も、改めて増加している

総務省の統計「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況」によると、不正アクセス行為の認知件数は、令和4年度で2200件。遡ると、平成30年では約1500件でしたが、令和元年、令和2年には3000件弱まで急増していました。その後、企業の不正アクセスへの対策も進んだのか、不正アクセスは減少したのですが、近年また増加傾向になっています。

このデータは「認知件数」であり、政府に報告されていない不正アクセス行為を含むと、この数倍の情報漏えい、あるいは情報漏えい未遂が起こっていると考えられます。



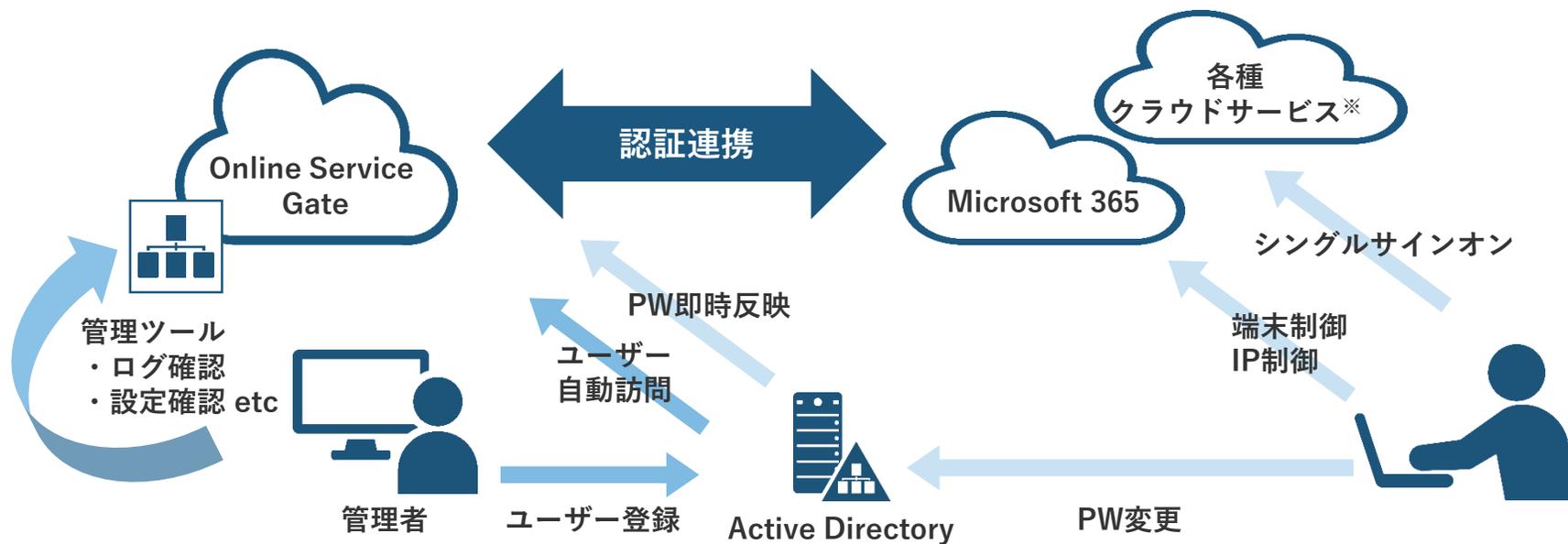
※令和元年の各種数値については、平成31年1月から4月までの数を含む。

(出典) 総務省「不正アクセス行為の発生状況及びアクセス制御機能に関する技術の研究開発の状況」より引用し改変
https://www.soumu.go.jp/main_content/000868634.pdf

高度なアクセス制御とユーザーの利便性を考慮したSSOの両立

安全性と利便性の向上を同時に叶えるOnline Service Gate

Online Service Gateは、各種クラウドサービスへのIPアドレス、アクセス元制御などによるアクセス制御を実現します。加えて、多種類のID/パスワードがパスワードの管理に悩むユーザー、管理者の負担を低減するSSO、AD連携、自動サインインも実現します。



※Microsoft者以外が提供するクラウドサービスとの連携には、Microsoft Azure Active Directoryが必要です。

(出典) clouXion紹介資料より引用